

Wireless - Bent

写真学科
高島圭史

Wireless - Bent

Department of Photography
TAKASHIMA Keiji

古くから社会は利便性を追求することで技術やサービスの進化を遂げてきた。
現代社会で利便性の代表としてはデジタル技術とそれに関わるサービスなのではないだろうか。
スマートフォンなどのデジタルデバイスは世界中の多くの人々が手に入れて、毎日身に付けるようにして使用している。

これほどまでにスマートフォンなどの情報端末が急速に普及した理由は小型化や情報インフラの整備はもとより、携帯電波、無線 LAN、Bluetooth などの無線化技術の大幅な進歩が一助として、大きく影響されていると考えた。

無線（無線通信）技術は19世紀から20世紀初頭にかけて実験、開発が活発に行われ、初期ではモールス信号という信号の長短の組み合わせで通信するというものに始まり、現在では高解像度動画のストリーミングも可能になり、大容量で高速な通信ができるように急速に進歩を遂げている。

本作は利便性を中心に巻き取る現代社会の認識を写真作品を通して視覚化する試みである。今回は昨今の利便性を語る上で中心的な存在となっている「無線通信」を主に取り上げ制作を試みた。

本作品は、無線通信の黎明期と同時期にあたる、写真技法のフォトグラビュールと湿板写真をキーとし最新のインクジェットプリントまで、新旧の写真技術を織り交ぜて制作を行った。

湿板写真などの古典写真技法と最新の写真技術の多方向から制作することにより、鑑賞者の経験を通じて感じる「古さ」を喚起させ、現代と過去との時間的往来を想像させることが大きな目的である。そのことにより、新たな鑑賞者への経験を追加し、新しい価値観を得ることができると考えたからである。また、本作品は一般的には行わない湿板写真を曲げるという作業工程を行うことにより平面から立体へと明確な差異を生じさせ、平面作品のみで構成されたものより、多くの情報を獲得できることに強く繋がることになる。そこにはモノを見るという人間の欲求が顕著に現れる。

その能動的な行為を行う事を、見ること以外の様々な事象に対して能動的にアプローチできるきっかけとし、利便性というものの、とりわけ身の回りにある技術革新を再認識し、日常にある変化を考慮する入り口となるよう、制作された。







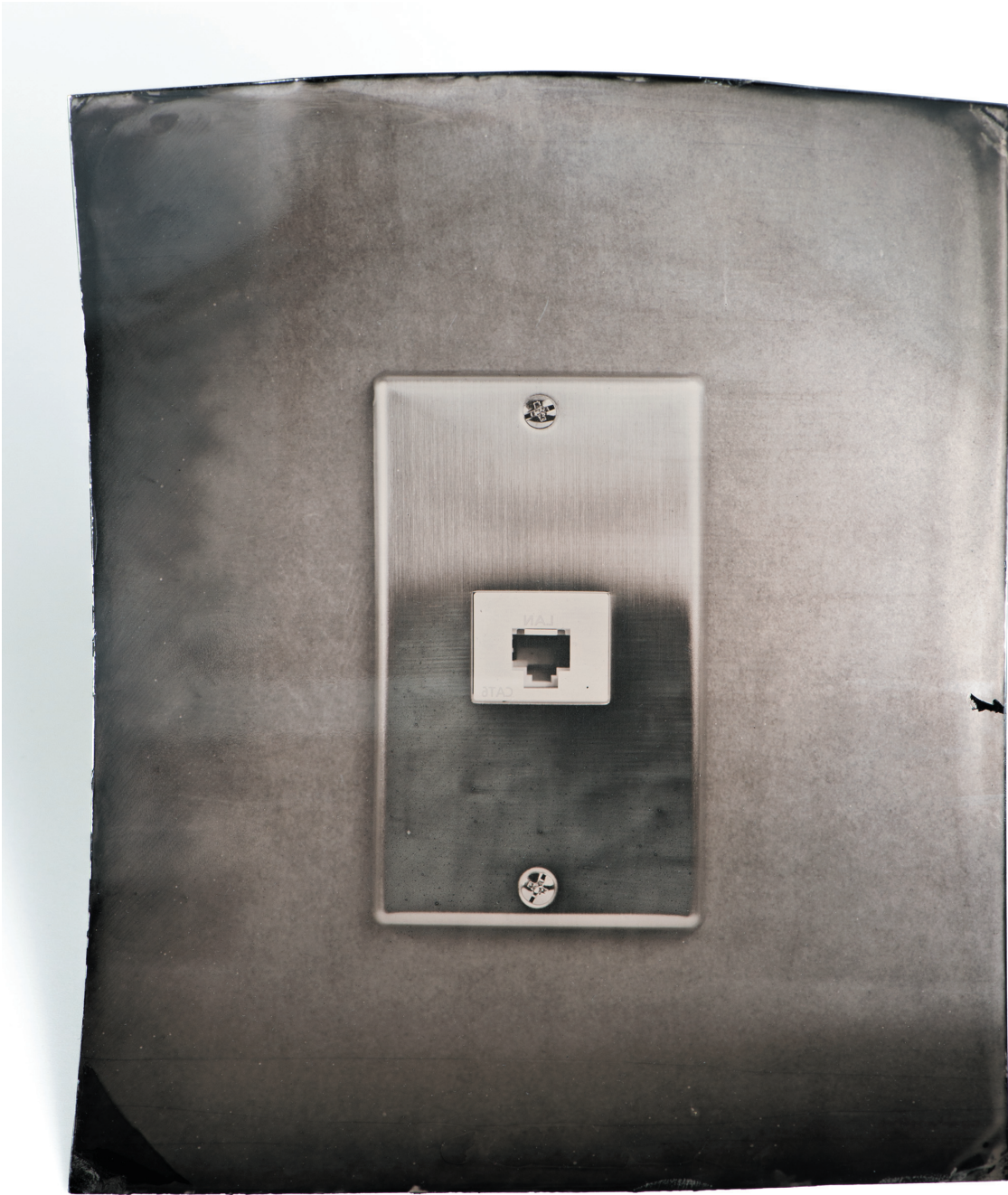
Flat - Outlet



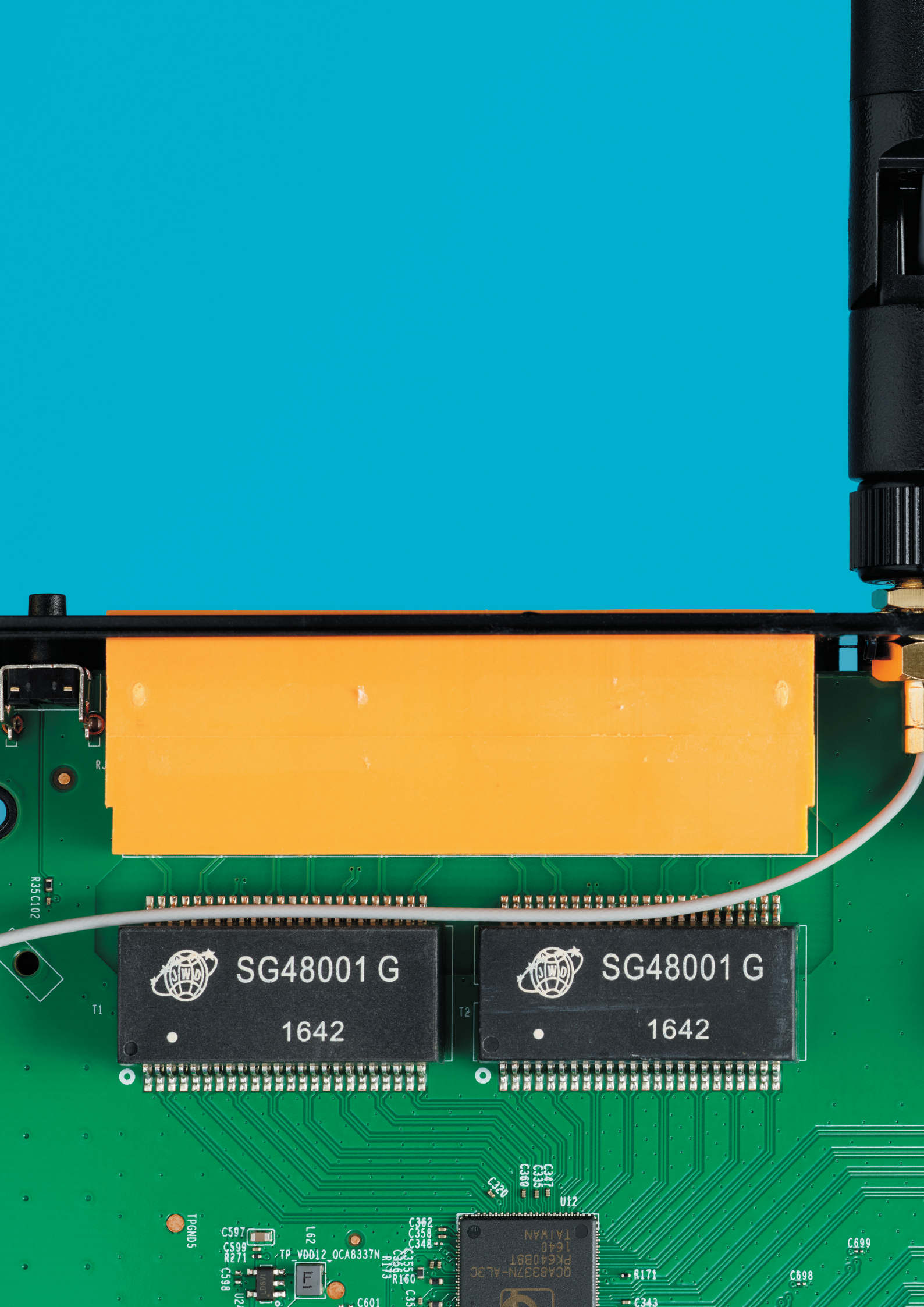
Flat - LAN port



Flat - Cable



Bent - LAN port



SG48001 G
1642

SG48001 G
1642

QCA8337N-AL3C
TAIWAN
1640
PK640B8T

